

# 日本酒 韓国にもっと売り込め

## 駐韓大使公邸でPR

福岡の蔵元ら



韓国での日本酒PRイベントで、試飲してもらい魅力を説明する福岡の蔵元社員(左端の2人) =20日、ソウルの駐韓日本大使公邸

【ソウル神屋由紀子】韓国で日本酒を売り込もうとソウルの駐韓日本大使公邸で20日、福岡などの酒造会社20社が参加した日本酒の魅力を紹介する会が催された。韓国では日本酒の小売価格が日本の3〜10倍といわれ、高価なイメージが強い。韓国政府は2日に酒税法施行令を改正し、酒類輸入の規制を緩和しており、業界関係者は輸出拡大を狙っている。

会場には、韓国の外食産業関係者ら約1200人が参加。武藤正敏駐韓大使が「日本酒は深い味わいがあるが、韓国では高い価格が問題。流通コストが下がり、多様な酒が販売されることを願う」とあいさつした。韓国政府の規制緩和は、酒類輸入業と小売業の兼業を解禁する内容。自由貿易協定(FTA)締結国を拡大する中、チリ産ワインなど関税が撤廃されても小売価格が下がらないことへの消費者の不満がきっかけだった。

政府は輸入業者を限定していることが小売価格の高止まりの原因と判断、規制緩和に踏み切った。韓国での居酒屋ブームを背景に、日本酒の韓国への輸出量は年々増加。日本の財務省貿易統計では、昨年の輸出額は約12億1千万円。輸出量は5年間で4・3倍の伸びを示している。

だが、韓国では日本酒(同県みやま市)も「百貨店やレストランでの販売価格は日本の約5倍。関税や流通の障壁を解消してほしい」と語った。

女市)が「韓国は特に関税が高く、政府は関税引き下げの交渉をしてほしい」と指摘。菊美人酒造(同県みやま市)も「百貨店やレストランでの販売価格は日本の約5倍。関税や流通の障壁を解消してほしい」と語った。

毎日新聞

2012年(平成24年)2月21日(火) 夕刊



日本酒を試飲する人であふれるソウルの日本大使公邸=20日、西脇撮影

## 韓国 日本酒ブームなるか

### 規制緩和機にPRイベント

【ソウル西脇真一】韓国で酒類輸入に関する規制が緩和されたのを機に、日本酒のPRイベントが20、21日にソウルで開催されている。これまで日本の3〜10倍という価格で販売され「高い」イメージのある日本酒だが、規制緩和で価格の引き下げが期待されている。各地の蔵元がタッグを組み、米国に次ぎ世界第2の日本酒輸入国・韓国でのさらなる普及を目指す。

20日に日本大使公邸で開かれた催しには、

震災被害を受けた東北をはじめ全国の蔵元20社が、約150人に自慢の酒を振る舞った。21日には日本貿易振興機構(ジェトロ)や日本酒造組合中央会主催のセミナーや商談会も開かれる。

韓国では「高級」イメージのあった方が販売にはずみがつくという側面があるが「規制や税率、流通マージンの高さから価格が跳ね上がり、日本酒が浸透しない要因となっていた」(福岡県八女市の喜多屋)。2月の法令改正では、輸入業者と小売業者の兼業が可能となる。